



駒本の力

駒本小学校（家）

教育活動紹介便り

NO. 27

平成28年6月14日

全校遠足で見た愛と熱と力の駒本

校長 田中 克昌



一度の延期、予備日の変更を乗り越え、満を持して実施した、全校遠足。子どもたちにとっても、本当に楽しみにしていた遠足でした。行き帰りには、6年生が1年生の手をつなぎ、エスコートする姿は何とも微笑ましく、頼りになる6年生の姿を頼もしく感じました。また、その6年生のお兄さんお姉さんを信頼し、慕っている1年生の姿もとても素敵でした。川口グリーンセンターは、環境も施設も整い、遠足場所としては申し分ない場所でした。縦割り班ごとのオリエンテーリング

では、班長さんや6年生が本当に良く頑張りました。彼らの下の子を思う優しさと、責任感に「愛と熱と力の駒本」をたくさん感じる事ができました。

帰りの電車で、スヤスヤと眠る1年生の子の寝顔がとてもかわいらしく、まだ孫はいま



せんが、孫を見ているような気持ちになりました。今回の遠足では、教職員総力をあげての引率となり、主事さんや事務さんや講師の先生方に大変にお世話になったこと感謝いたします。また、学校支援地域本部の計らいで6名の保護者等の支援を受けることができました。このように学校、保護者、地域の協力で全校遠足が実施できるというのも、駒本小の確かな「力」の一つであると思いました。また、2回のお弁当づくりにより保護者としての愛情を子どもたちに注いでくれたこと感謝いたします。子どもたち

が保護者の方が作ってくれたお弁当をうれしそうにそして自慢げに食べている姿にご家庭の愛を感じました。今年は、食物アレルギーへの配慮からおやつ交換はしませんでした。遠足と言えば「おやつ」ですね。満面の笑みで自分で選んで買ってきたおやつを食べる姿も、微笑ましかったです。このように駒本の子どもたちは行事を通して確実に一步一步成長を遂げています。今週は、5年生が八ヶ岳移動教室に出かけてきます。大きく成長することを期待しています。

4つの言葉を大切に「はい」

本校では、礼儀正しい子を育成したく、居ずまいを正した挨拶指導に力を入れています。さらに、丁寧な言葉遣いの指導にも力を入れています。特に全校で取り組んでいるのが、「はい」「ありがとうございます」「お願いします」「ごめんなさい」の4つの言葉の指導です。この4つの言葉が学校中で定着してくると、学校の雰囲気は大きく変わってきます。今回は、「はい」の大切さについて説明します。

「はい」

名前を呼ばれたら、「はい」と元気よく返事をする事です。これは、全ての学びの基本となります。教員も全校朝会で、週番の先生として名前を呼ばれたら、手を挙げて、元気よく「はい」と返事をしています。大人が率先して見本を見せることがとても大切です。

子どもたちへの呼名での「はい」は、学校では極々当たり前のことなのですが、全員ができているのかということと必ずしもそうではないようです。これは、100%でありたいと思っています。

「はい」という返事は、呼名の時だけではありません。先生方は指示や説明をした後に、「分かりましたか？」と子どもたちに聴くことがよくあります。子どもたちは「はい」と返事をし、その説明という行為が終了します。これは、クラス全体でも個人でもとても大切なことです。活動や授業のリズムを形成することができるという効果があります。

さらにここからがとても重要なのですが、子どもにとってなかなか素直に飲み込めないような指導をした時、つまり叱った時ですね。そんな時に「はい」と言えることが大切です。特に、教員の指導に対して素直に受け入れることが苦手な子に対して、まずは「はい」と言ってみようという指導がとても大切です。「はい」という返事をする事によって、まずは相手の言うことを受け止めるという行為になるからです。飲み込むと言います。これは「素直さは伸びるコツ」に通じます。指導が届きにくい子は必ずすぐに「だって」「でも」「どうして」といった「D」のつく言葉を発して、自己防御を始めます。そうなると、聞く耳をもつことはできず、厳しいやりとりになってしまいます。そんな子どもに対して、落ち着いているときに、まずは「はい」と言ってみよう、理由や考えは、その後に聞くから、言いたいことはそれから言ってみないかい？と指導し、そのことを納得させることができると、その子の態度はずいぶんと変化します。

「はい」という返事一つでも奥深い意味と教育的な効果が含まれているのです。まずは、「はい」と言える駒本の子どもたちを学校でも家庭でも育てていきましょう。

さらに、「はい」の返事はお腹からです。お臍の下に、臍下丹田という気のツボがあるのをご存じですか？武道ではそこに気をため込むことや意識させることを教えます。臍下丹田にため込んだ気というエネルギーを「はい」という言葉で、放出するという事です。ですから、お腹から声を出して「はい」と言えると良いのです。このお腹からの「はい」という返事ができるようになると、またまた子どもたちの態度は大きく変化していきます。ぜひ試してみてください。